

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターしばもと

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価
評価日時： 令和 7年 2月 14日（金） 13:00 ~ 14:30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

「思い合うこどもたち」～いっぱい愛されて～
1. 元気もりもり 2. 心きらきら 3. 遊びわくわく

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定したこども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

令和6年度 重点目標
子ども一人ひとりを受容し、個々の成長発達に合わせた対応を行い、職員の専門性を高めます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	グランドデザインは天竜厚生会の全体像であり、その中で重点目標を園として落とし込み、教育・保育を行っていくために、改めて職員研修でグランドデザインの意味や内容を理解し共有した。重点目標を理解したうえで、指導計画の作成ができた。キッチンや支援ひろばの立場だと、落とし込みは難しいが、理解はできている。	3	園としては共有できていた。今後の課題として、グランドデザインを地域にも発信していかなければいけない。（地域との共有）写真を多く利用し周知したり、掲示板に掲示し見える化していく。HPで公表しているが、すべての人が見えていない。周知していく方法を検討していく方が良いのではないか。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	日々の計画は、カンファレンスや週案会議等ですり合わせを行うことができた。あおむしを飼育し、子ども達と成長を楽しみながら見守り、アゲハチョウになり、命を育てる経験をした。その経験が、施設合同作品展の作品へとつながり、製作としても楽しむことができた。また、畑で野菜作りをし、世話をしながら生長を観察し、収穫を体験してクッキングを楽しめた。	4	昨年の評価の反省を生かして、飼育を取り入れ、色々なことにつなげることができていた。野菜作りの経験を通して、楽しんで学べることも多かった。しばもととしての、特色があってもよいのではないか。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<p>職員は色々な行事があり大変な面もあったが、子ども達の表情から、子ども達がどの行事でも楽しんでいたことが感じとれた。年齢の枠を超え、しばもと夏野菜祭りや青空リズム、ハロウィンコンサートや園庭開放等で支援ひろばとの交流ができた。</p> <p>地域の方（食育の会、更生保護女性の会）が行ってくれたうどん作りやおはなしの会等で、地域の様々な人たちと関わることで社会的ルールなどの知識や思いやり、感謝、憧れの気持ちなどの感情が育まれる機会をつくれた。</p>	4	<p>うどん作り（4才）は、初めて地域の方との話ができて、話すことで自信が持てた。知っている地域の方と会える事が、楽しみになっていることもあった。子どもにとって、様々な人と関われることはとても良い。伝承遊びを教えてもらう機会を作れるとよい。どの子にとっても意味のある活動になっている。</p>
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	3	<p>日々の様子等できる限り口頭で保護者に伝えられるように心がけているが、不十分な面もあった。相談事を気軽にさせていただけるように職員もコミュニケーションをとるよう心掛けたり個々に寄り添う努力をしたりしているが、保護者との間に温度差が多少あったように感じ、もっと保護者が必要とする情報を発信することが、課題としてあがった。</p>	3	<p>職員からの伝達は、日々してもらっている。コミュニケーションはとれていると感じている。第1子の保護者は不安が大きいため、保護者に安心してもらう必要がある。保護者との関係は基本長年かけて築き作り上げていくため、気持ちの良い挨拶を職員ができれば、子供もできる。職員紹介の写真がわかりにくいので、表示の仕方を検討してほしい。</p>
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<p>地域の方に支援ひろばを通して、園のことを知っていただくために、行事への参加や離乳食展示、ひろば来園保護者に調理員が食育講座等行った。他機関との連携として、ことばの教室や保健師への接続、連携をとることができた。</p>	3	<p>支援ひろばがわかりにくい。発信し、知ってもらう機会を増やしていく方が良い。回覧板や掲示板での表示と広報として発信していく方法もある。</p>
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<p>専門性を高めるために、カプラ研修や保育実技研修等に参加した。伝統的な行事や遊びに関して、職員が経験していない事があり、子どもたちへ伝えられないこともあった。今後の課題として、行事等他方面でも職員として意識の向上を目指していきたい。経験豊富な職員が伝承し、報告、連絡、相談等でコミュニケーションも図っていく。</p>	3	<p>人材育成や指導技術の伝え方を考えていく。コロナ禍の5年は大きく、行事等地域でも知らない人は多い。園でないと経験できない行事がある。歌を子どもから教えてもらうとうれしいと感じる。年齢層の厚さが強みになるため、伝承していくことが今後の課題となる。</p>